

ここでは大枝の竹を通してど  
んな人のつながりがあるのか  
を紹介します。

大枝の誇り！白子筍

大枝塚原でとれる筍は白い地肌と甘さと柔  
かさ自慢の美味しい筍として知られていま  
す。なかでもたまに採れる真っ白な筍は「シ  
ラコ」「白子筍」と呼ばれる最高級品で、1本  
1万円を超えることも。地上に顔を出す前の  
筍にはアクやエグみがほとんどなく、大枝で  
はこの地中でのみ育つので、朝に掘っ  
たばかりのみずみずしいものならお刺身で味  
わうこともできます。大枝がこういって上質  
な筍の産地となったのは、地質が適していた  
こと、昭和の恐慌を筍栽培で乗り切った農  
家の方々の懸命な努力があったからです。



危険な放置竹林

竹は1年で大きく育ち、筍畑である竹林は  
放っておくとこのサイクルがどんどん繰り返  
され、枯れた竹が折れ重なって足も踏み入れ  
られない程に荒れてしまいます。密生した竹  
林は暗く、枯竹が倒れてきたり不法投棄の場  
になるほか、土壌が水を保持する機能が弱り、  
地滑りなどのおそれがあります。こうした状  
態を防ぐために、竹再生クラブなどが枯れた  
竹を切ったり間引いたりして竹林を整備し、  
守る活動を行っています。



藁の上に土を入れて

肥料として糞や落ち葉を  
敷き詰めている所

土入れは冬の一大行事

筍を育てるためには土を暖める必要があり、  
冬に藁を竹林一面に敷いてその上から土をか  
けていきます。広い竹林全体をこうして自然  
の断熱材で覆う作業は「土入れ」と呼ばれ、  
これが終わると春まで筍が育つのを楽しみに  
待ちます。

基本のゆがき方

1. 荒皮をむき、先端を切り落とす。荒皮はむかずに残す。
2. 鍋に筍とたっぷりの水を入れ、水から十分にゆがく。丸ごと入らなければ縦に切る。沸騰したら60分、水が減れば足し、ふかさないこと。
3. ゆであがったら火を止めてそのまま冷まし、筍を取り出し水によくさらす。



奥さんオススメたけのこ料理

・美味しいたけのこの見分け方  
ビール瓶ほどの太さで、色が白く、形がす  
りとしているものが良い。日に当たって緑色  
になっているものは避ける。

◆たけのこ炒め◆

材料  
《ゆでたけのこの根元・生しいたけ・人参・セロリ・赤唐辛子・ごま油・砂糖・醤油》

作り方  
1. たけのこは薄く切る（千切りでも良い）  
2. 生しいたけ、人参、セロリもたけのこ  
と同じように切る。

3. 赤唐辛子は種を取って輪切りにする
4. 鍋にごま油を熱して、赤唐辛子、たけのこ、人参、セロリ、生しいたけの順に入れて炒め、油がまわったら砂糖と醤油を加えてさらに炒める。

西京魅力探訪

「大枝ひとつなぎ」って何だろ？



ちよと雑貨屋さん寄てこ!



さるうし合戦って...?



苔階段ってなに？



おいしい地元野菜ってどこで買えるの？



「マンカラ」って知ってる？



大枝の学校のイチオウの木って...?



有名な武将と大枝の関係について!



竹林ってどうやって育ててるの？



筍のゆがき方知ってる？



おいしいパン屋さんがあるんたっ？



水出しコーヒーが飲める喫茶店があるの？



神社! 神社!! 神社!!!



こだわりの柿屋さんはどこにある？



大枝地区の皆さんはじめまして。京都市立芸術大学デザイン科4回生の大枝班です。突然ですが皆さんの住んでいる地区にどんな人が住んでいるか知っていますか？色んな人が助け合い、繋がって大枝という地域は成り立っています。大枝の元気の源であるたくさんの方々のほんの一部ですが、取材をさせて頂きました。「ひと」でひとつに繋がっている、そんな大枝の「ひとつなぎ新聞」。大枝の優しい姿が見えてくるかもしれません。



茗荷 松倉 古田 友定 田井

編集後記

取材を通じて、お話を伺うたびに地域のつながりの素晴らしさを体感しました。この貴重な体験が得た想いを文章と絵に込めました。紙面から溢れんばかりの人々の想いを感じていただければ幸いです。この新聞を制作する為にご協力下さった方々、取材を快く受けて下さった方々、大枝地区の皆様、本当にありがとうございました。

自治会会員募集

あなたも大枝のひとつなぎに入りませんか？  
気になった方は気軽にお電話を！  
075-331-8677 自治会長 高塚勝巳  
消防分団員も募集しています。  
075-331-5304 消防分団長 豊坂徹  
～自治会からのお知らせ～  
天ぷら油・廃油を回収しています。  
所定の日時・場所でお待ちしています。  
詳しくは各地域のルールをご確認ください。



大枝学区は古い歴史を持ち、見どころがたくさんあります。その場所や起こっている出来事を、大枝で暮らしている方々のお話を通じて紹介します。

● お店  
● 直売所

祭を彩る大枝音頭

大枝音頭は作られた当時は盛んに踊られたものの、時代の変化で一度は途絶えてしまいました。しかし平成13年に大枝夏祭りが始まったことで、大枝音頭も主役として復活しました。大枝小学校の児童やPTAが振り付けを学び、平成21年にはさらに自治連合会も連携して大枝音頭保存会を結成。今年には市立大と協力してオーケストラ版の大枝音頭を完成させるなど、地元を愛するその情と心は受け継がれて再び盛り上がりを見せています。



三ノ宮神社  
その奥にある御殿へ続く石階段がとても幻想的。

息子神社

大きなクスノキが目印。奥のモミジの紅葉がキレイ。

長老140歳 イチョウの木

大枝小学校設立時からあり、今まで何度も校舎は増改築されましたが、このイチョウの木だけはずっと変わらず子ども達を見守り続けています。昔はこの木から屋根に登って降りられなくなった子もいたとか。

大枝博士・中原さんの若い頃

昔の大枝はどこまでも竹林が広がり、少し高見からは淀の競馬場が見えていたそうです。「若い頃は菊栽培の手伝いで60キロもある土を担いで歩き、お膝で足踏が丈夫になりました。幼い頃は遊びはもっぱら外で、竹道具で遊んだり川や池で泳いだり石山や水晶山（水晶が取れる山）で山遊びをしたりと、ほとんど家にいることはなかったですね。」

中原さん



児童館

けん玉・お手玉・将棋など昔ながらの遊びで遊んでいます。またマンカラというアフリカのボードゲームでも遊んでいます。西京区小学生マンカラチャンピオンもいるそう。

chotto

家族3人で、お花も売っているかわいい雑貨屋さん。店内も杉材や栗園のある通りに。亀岡や長岡京からのお客さんも来るほど。

大枝小学校



永守さん

30歳の若さという、大枝で最年少農家の永守さん。「子どもの頃は農業以外の仕事を考えていたけれど、気が付いたら農家になっていました。農業は時間的自由に使えるしずっとこの地にいられますが、逆に言えば自由だけに全て自己責任。また野菜を育てる中で、お互いの畑の境目は半分ずつ手入れするなど、周りの農家との付き合いの大切さを感じています。」これからの大枝の農業を担う頼もしい存在です。

永守さん



田原さん

ひいおじいさんから伝わる昔ながらの栽培方法で、柿・タケノコをひとつひとつ丁寧に手を抜かず育てていると熱く語ってくれた田原農園さん。「毎年うちの収穫を楽しみにしてくださっている常連さんに加え、最近では始めたインターネット販売でも新しいお客さんが増えたのが嬉しいですね。」

田原さん夫妻



大枝にできたパン屋さん

「小さいときからずっと大枝に住んでいました。地元でパン屋を開くのが夢でした。秋まで販売している地元でとれたトマト・ナス・オクラを使った野菜ピザはとっても美味しい。そしてシンプルなフランクパンと食パンは特にオススメ！」

田原さん



地元の人が通う

「コーヒーは水出しで8時間かけて入れています。そして地元付き合いで仕入れるお野菜が豊富な料理を心がけています。大枝で30年間お店を開いていますが、長く続く秘訣は年中無休、毎日同じ事をきっちりとする事。この時間になるとあの人々が来るのが嬉しいですね。いつも色んなお客さんとお話出来るのが楽しいですね。」笑顔の素敵なやさしいママに出会えるお店でした。

ママさん



全京鶏卵の米田さん

風平町では10年お付き合い。長期で付き合えるお店です。



さるうし合戦

大枝の神楽の歌は、猿です。都市開発により山を追われた猿たちは大枝の神楽を流らしてやってきました。農家の方々は畑を大きなネットを取り囲み、電流が流れるワイヤーを周囲に張り巡らすことで、一度は猿たちを撃退しました。しかし数年後には猿達も学習して仕掛けを越え、再び神を狙うようになつてしまいました。困った農家の方々の対抗手段は、牛でした。レンタカウと呼ばれる牛を借りて神楽に放つと、猿は牛を怖がって近付かなくなつたそうです。



大枝音頭ができたころ

大枝音頭は昭和27年に誕生しました。当時旧大枝村が京都市に編入した直後で、町おこしの一つとして作られました。「当時の原盤作りは大枝小学校の男性教師と女児2人でレコードに吹き込み。私はその当時小学校3年生で、吹き込み役の先生の一人数の調子を良くするために、当時高級だった生卵を音頭を吹き込み前に飲まされていたことが印象深かったですね。」



大枝を守れ！消防分団

大枝学区の消防分団長を務めていた村上さん。高校生の時から補助員として参加し、大人と共に拍子木を打ちながら番掛く中山町を「火の用心」して回ったそう。月4回の巡回やマラソン大会の補助スタッフなど、地元の為に活動します。「実は消防分団を地元の人がしているのは関西の政令指定都市では京都だけです。いざという時、『あの道は細くて車が入らない』『あの家には足の弱いおばあちゃんがいる』などの地元に住んでいるからこそわかる情報が人の命を守ることにあります。」自分の町は自分たちで守る、という意識によって大枝の安全は「層強く守られています。」



大枝菊再生クラブ

西小路さんは大枝菊再生クラブの会長として7年間務めています。「竹の伐採など危険な作業は業者にまかせ、他の作業はボランティアを募りみんなで作業。7年間続けてきた今、竹林はだいぶ再生されてきました。荒れた竹林を再生するのは大変です。」



弁天井戸とエリザベス女王

弁天の井戸のあたりに音あつた旅館には、イギリスのエリザベス女王が訪日した際、そこで休憩していたという逸話があります。西小路さんの父親が運筆の花を持って行き、女王に頭をなでてもらったそうです。



桓武天皇御母御陵 高野新笠大枝陵



関の明神 明智光秀・足利尊氏が通った関所があった



大枝を助け合いの町に  
自治会の副会長である開田さん。「地域のひと々と関わる伝統や習慣が失われつつある今、特に若い世代は地域を愛する自治会に興味を失って、役員などは他の誰かにやってみようという人が増えています。ここ大枝では誰かが町のために動いているという実感をもち、自分の置かれたら義務感ではなく今までのお礼として務める意識が大切だと思います。」町に住む人々のためにお互いが助け合うという経験が、大枝の地域を良くすることに繋がるのではないのでしょうか。



大枝の神楽の歌は、猿です。都市開発により山を追われた猿たちは大枝の神楽を流らしてやってきました。農家の方々は畑を大きなネットを取り囲み、電流が流れるワイヤーを周囲に張り巡らすことで、一度は猿たちを撃退しました。しかし数年後には猿達も学習して仕掛けを越え、再び神を狙うようになつてしまいました。困った農家の方々の対抗手段は、牛でした。レンタカウと呼ばれる牛を借りて神楽に放つと、猿は牛を怖がって近付かなくなつたそうです。

